

提携米通信

2012年3月号・黒瀬農舎



チョッピリ春の陽射しが感じられます。

今年の冬は、早くから雪が格別に多く、また、寒さも厳しく、毎朝行う精米は、始業時に30分から1時間程度、精米機やコンプレッサーなどの装置を、ストーブや、移動式のガンバナーで暖める日が多いでした。

秋の収穫が終わって雪の季節に入る頃は、毎年「次のお米作りまで十分な時間がある。」と思うのですが「12月、1月、2月は、瞬く間に過ぎる。」と、これも、3月始めには毎年のように感じる事です。

ところで、年末からの寒さがずっと続いた2月も、月末に入ると、時々、一面の銀世界に春らしい陽が射す日も現れてきました。

今年も、この3月の下旬には、種籾の準備などが始まります。

毎年春作業の前になると、お米作り時の入候についての心配がつのるのですが、今年も、本来の秋らしい厳しい冬が続いたため、入候の予測は当たらないことが判っていても「寒い時期に寒さが来れば、暑い季節には暑くなるだろう」と、なんだか心に余裕が出る思いがしています。

今年の米作りの課題は、先ず第一番は、放射能問題です。

お伝えしているように、半地は福島原発事故地から300Km離れていた上、事故時期が冬型の気圧配置だったこと、奥羽山脈に遮られたお陰で、名目上以南の地域並の影響しか受けませんでした。

また、実際にセシウムの確認検査をした結果も、玄米1Kg当たりのデータは検出限界の1ベクレルに達せず、安全の立証ができました。

このように折角汚染を免れたのですから、今年の米作りに使用する有機肥料など、外部から持ち込む全ての資材の放射能確認を現在行っているところです。

提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

ライスロッヂ大潟 代表 黒瀬 正

TEL: 0185-45-3088 FAX: 45-2887



E-mail: akita@kurose.com Web:

[提携米 黒瀬農舎](#)

[検索](#)

3. 11大震災一周年に深く反省



去年の3月11日の大震災から1年が過ぎました。
未だに行方不明の方を含めると、死者は2万人とい
う大災害でした。

被災された方々は、当然これだけではなく、家を失
われた方、仕事を奪われた方、就学、進学を断念された若者などなど、この大震
災は、膨大な人々の人生を狂わし、また心にも深い傷を残しました。

私たち日本人としては、効果的な支援をする術もなく、歯がゆくて申し訳なく思
いますが、一日も早い生活基盤の確立を祈るばかりです。

一方、この震災と同時に起こった「人災」である原発事故は、事故原因や事故
後の対応の実態が明らかになればなるほど、地震津波の震災とは違って、腹立た
しさが募ります。



文明の利器は、人間の生活にとって効用をもたらす反面、
向れにも、多かれ少なかれ弊害があります。

例えば、車でも飛行機でも、移動の利便や快適を与えます
が、一方で事故の発生を始め弊害もあります。

原発を推進する人は、原発もこれと同じで、エネルギー
確保の効用がある。事故などの弊害は「車や飛行機の事故
確率よりも小さいから、原発導入することが正しい。」と
いう短絡な観点に立ってきて、事故後もなお、そのように信じています。

この発想は根本的に間違っています。

例え事故確率が車より低くても、その事故は、車に乗っている人や、衝突相手
などの限定範囲に止まらず、まったく無関係な次代を担う子供たちや平和に暮ら
す市井の人々を巻き込み、時には今車のように被害範囲は地球規模に及びます。

その上、回復の期間も数十年、数百年だということを無視しているのです。

事故が発生した場合に、原発がコントロールできないことを知っていながら、
原発を推進や誘致し、その拠り所としているのは、何の合理性もない「安全神話」
だけ。原発推進者は、正に科学的な視点がないだけでなく、道徳観も全くない、
人間としての価値のない生物です。

では、このような原発推進する東電や原発製造メーカーなど原発の建設や開発
に直接携わった人々や、原発誘致した原発設置自治体の人々だけが「犯人」や
「罪人」なのでしょうか。

彼らは、潔癖無罪とは言えませんが「真犯人」ではありません。

電力会社や原発メーカーなどは元来、自らの意志で原発の開発や設置を始めた
ものではありません。むしろ「手を染めたくない。」「やりたくない。」と最初は
思っていたが、それぞれの組織の惰性と保身や自己利益の追求など、哀れな本能
に流され、政府の「原発推進政策」に引きずられて行ったのです。

ですので原発推進政策を決めた政治家が「犯人」ですが、本当は、そのような
愚かなミスリードする政治家を選んだ我々市民こそが「真犯人」です。

原発推進は失策・失敗だったことが判明した今も、それを転換できないでいる
現在の国会議員を選んでいられる私たちも権者市民こそが、深く反省する時だと思
います。